

第44号 平成26年10月1日 発行
 (偶数月発行/年6回)
七色花
 中国・四国中国帰国者支援・交流センター
 社会福祉法人 広島県社会福祉協議会
 〒732-0816 広島市南区比治山本町12-2
 TEL 082-250-0210
 FAX 082-254-2464
 E-mail chushikoku-center@festa.ocn.ne.jp

高知県相談説明会・健康増進交流会

8月8日(金)高知県の帰国者を対象に相談説明会・健康増進交流会を開催し、午前には健康講座、午後にはスポーツ吹矢大会を行いました。健康講座では高知県の行政職員を講師に招き、検診結果の見方や定期検診の重要性について説明していただきました。難しい専門用語を分かりやすく教えてください、参加者はよく理解できたようです。中には自分のお薬手帳や検査結果を持参していて講師に質問する人もおり、健康への関心の高さが伺えました。高知では3回目となるスポーツ吹矢大会は、毎回工夫を凝らしたゲームで参加者を飽きさせず、また、初参加の人もすぐに慣れ、みなさん楽しくプレイできたようです。



広島県高齢者施設見学・交流会

8月26日(火)広島県福山市の帰国者を対象に高齢者施設見学・交流会を開催しました。訪問先は、地域密着型特別養護老人ホームで、サービス付高齢者向け住宅も敷地内にあり、健康な時から利用でき、身体が不自由になったり、認知症状が出たりしても、状況にあったサービスを受けることができます。施設内にはレストランや足湯などの設備があり、明るく開放的で、まるでホテルのような雰囲気でした。施設に対して、自由を奪われるというイメージを持っていた帰国者は、想像とは全く違ふと、とても驚いていました。実際に自分で見て確かめたことで、施設に対する偏見がなくなったようです。



中国・四国ブロック支援者研修会

9月4日(木)・5日(金)中国・四国ブロックの中国帰国者の支援者を対象に研修会を開催しました。1日目前半、東日本大震災の講演は、実体験に基づくもので、津波で亡くなった方のご遺体を洗う話など被災現場の壮絶さに大変衝撃を受け、防災意識を新たにしました。後半は、広島県社会福祉協議会の職員が、帰国者も利用できる社協の事業を説明し、支援者が橋渡しとなってどのように解決に導くか、事例をもとにグループ討議をしました。支援者にとっては、困った時の相談窓口として社協も加わったようです。2日目の医療通訳養成講座は、医療知識を学ぶと同時に伝言ゲームやロールプレイなどを取り入れた実践演習でした。参加者の中には中国語力の違いからプレッシャーを感じる人がいる一方、数少ない勉強の場として毎年心待ちにしている人もいました。こうした意見をもとに、なるべく支援者のニーズに添うような研修会を今後も構成したいと思います。



中四国地域の活動報告
 ① 第二回中国残留日本人の生きられた体験を聞く会
 8月9日(土)第二回中国残留日本人の生きられた体験を聞く会が開催されました。広島大学の先生による時代背景の説明の後、帰国者1世・2世・自立指導員の体験発表が行われました。台風の影響で来場者が少なかつたものの、参加者からは、「昨年より内容が充実していてよかった」「満州の歴史が学べてよかった」「これからも続けてほしい」といった意見が寄せられました。市民が中心となったこのような会が継続的に行われることを祈ります。
 ② 中国帰国者・広島友好会主催 中秋明月交流会
 9月8日(月)NPO法人中国帰国者・広島友好会主催の中秋明月交流会が開催されました。当初は公園で月を眺めながら行う予定でしたが、8月に起こった広島市の土砂災害の犠牲者を悼み、野外でのにぎやかな活動は控え、公民館で行いました。それでも参加者は100人近く集まり、京劇や二胡の演奏、秧歌踊りなどが披露されました。会場では、土砂災害への募金呼びかけられ、多くの帰国者が日本への感謝を込めて応じました。



投稿 高知県にお住いの石田以鶴さんからお手紙をいただきました。

孤児の苦しみ
 生まれた時は幸せだった。父も母も傍らにいてくれた。
 8月15日、日本は敗戦。私たちは孤児として置き去りにされた。
 中国人は私たちを「小日本」と呼んだが、養父母は命を助けてくれた。
 「小日本」とののしられ、涙は尽き果て、心は深く傷ついた。
 国交が回復し、やっと叶った帰国と再会。
 でも、心は更に深く傷ついた。
 幸せが待っていると信じた祖国で、「中国人」と呼ばれるなんて…。
 人は誰も幸せになりたい。なぜ残留孤児の苦しみは続くのか。

10月・11月の予定

10月5日	避難所体験会 〔広島県〕	10月未定	高齢者施設見学・交流会 〔愛媛県〕
10月9日	社会見学会 〔広島県〕	11月16日	異文化交流会 〔広島県〕
10月27日	健康増進交流会 〔広島県・岡山県〕	11月29日	社会見学会 〔島根県〕

投稿募集
 あなたも「七色花」に記事を載せてみませんか？
 みなさんからの投稿を募集しています。内容は日々の生活の出来事や中国での思い出、わたしこんな特技がありませ、など何でもかまいません。原稿は400字程度で、持参、郵送、FAX、メールでお願いします。みなさまからの記事をお待ちしています。

編集後記
 暑い夏が過ぎ、涼しい秋を迎えました。秋は収穫の季節ですね。このころになると、故郷の山東省で食べた桃を思い出します。その桃の名前は秋後蜜といひます。あまり大きくなく、緑色をしています。歯ざわりがよくて、とても甘くて、なかなか忘れられない味です。日本に来て、十数年経ちますが、秋後蜜を見かけたことがありません。故郷に帰って、秋後蜜を思いっきり食べたいです。(松葉)

七色花

高知县咨询说明会・促进健康交流会



8月8日(周五)以高知县归国者为对象举办了咨询说明会・促进健康交流会。上午进行了健康讲座,下午举办了体育吹箭大会。这次邀请了在高知县厅工作的专家为讲师,向大家介绍了定期健康检查的重要性以及如何看检查结果。难懂的术语通过老师的解释,变得浅显易懂。与会者中还有人带来了自己的药物管理手册和检查结果向老师咨询不懂之处,由此可见大家高度的健康管理意识。下午的吹箭比赛,这在高知已经连续3年举办,为了提高大家的兴致,每次的比赛项目可以说是花样层出,所以无论是初次参加的人还是年年都来的人,大家都玩的十分开心。



广岛县老人院观摩・交流会



8月26日(周二)以广岛县福山市归国者为对象举办了老人院观摩・交流会。这次到访的设施为紧密地区型特别养护老人院,占地中还设有附带护理服务的老年人公寓,在健康状态良好时就可以入住,当身体状况下降需要护理或出现认知症等情形时,就可以随时接受护理服务。设施内有专用的餐厅和泡脚池等等,不仅设备充足而且宽敞明亮,好像身在高级宾馆一般,完全出乎大家的想像,一改大家以往对老人院所持有的郁闷以及缺少自由等概念。不看不知道,通过实际参观,改变了大家对老人院所持的偏见。

中国・四国地区支援者研修会

9月4日(周四)・5日(周五)以中国・四国地区的支援者为对象举办了研修会。第1天的研修中,前半段时间和大家一起听取了关于东日本大地震的讲演,切身的体验说服力极强,特别是当听到如何冲洗被海啸冲走的死难者的遗体等处,灾区的惨状让人大受冲击,切实的感到防灾意识不可少。后半段时间,由广岛县社会福祉协议会的工作人员介绍了归国者也可以利用的福祉制度,通过支援者的桥梁作用,如何解决归国者所遇到的问题,会上利用具体事例进行了分组讨论。希望通过这次研修,当支援者在遇到问题时,会想到福祉协议会这一新的咨询窗口。第2天的研修内容是医疗翻译培训。通过讲座既增加了大家的医疗常识,还借传话游戏和实践演习提高了大家的翻译技巧。参加者中有的人认为自己的翻译能力不足、压力很大,也有的人觉得也是为数不多的学习机会,希望今后能年年搞下去。中心会根据具体情况,广泛参照大家的意见来企划今后的研修内容。



中四国地区活动汇报

①第2次中国残留日本人回忆录座谈会



8月9日(周六)召开了第2次中国残留日本人回忆录座谈会。首先由广岛大学的老师介绍了当时的历史背景,之后,分别由归国者1代、2代和自立指导员进行了切身经验发表。当天受到台风的影响,到场的听众人数不多。会后,收到了来自参加者的种种宝贵意见,「内容比去年更为充实,十分满意」、「借这次活动有了学习满洲历史的机会」、「希望今后还继续举办这样的座谈会」等等。中心也借此衷心期盼这种以市民为主的活动会源源不断。

②中国归国者・广岛友好会 中秋明月交流会

9月8日(周一)召开了由NPO法人中国归国者・广岛友好会主办的中秋明月交流会。原本计划是在公园的广场赏月,没有想到8月份广岛市发生了大型的泥石流灾害,出于对死难者的哀悼,将喧闹的户外活动改在了公民馆室内举办。即使如此当天的参加者也接近百名,会上有二胡演奏、京剧清唱、扭秧歌等等众多演出节目。在会场上,还举办了对泥石流灾害的募捐活动,众多的归国者积极踊跃的捐出了自己的一份心意。



投稿

本次投稿来自高知县的石田以鹏先生

孤儿苦

一出生来是幸福,又有爹来又有母。
八月十五日本败,扔下我们成遗孤。
中国人叫我们小日本,多亏了救命的养父母。
受尽人间谩骂的小日本,泪水流尽心里苦。
多亏中日建了交,才能回国见父母。
回得国来本想有幸福,有谁知日本人又叫我们是中国人,
心中还是苦。
人人都想得幸福,到头来日本孤儿总是苦。



10月・11月预定

10月5日	避难所体验	〔广岛县廿日市市〕	10月未定	高龄者设施观摩・交流会	〔爱媛县〕
10月9日	社会观摩会	〔广岛县〕	11月16日	异文化交流会	〔广岛县〕
10月27日	促进健康交流会	〔广岛县・冈山县〕	11月29日	社会观摩会	〔岛根县〕

征集投稿

您不希望把自己的文章登载在「七色花」上吗?在此,向大家征集稿件,内容不限,可以是日常生活琐事,也可以是追忆往昔,或者是介绍专项所长。原稿字数限400字以内,投稿可直接送到中心,邮寄、传真亦可。

期盼大家积极踊跃的投稿!

编辑后记

炎热的夏季过去了,迎来了凉爽的秋天。秋天是收获的季节,每当这个时候,我就会想起在山东老家吃过的一种叫秋后密的桃子。这种桃子不大,颜色是绿色的,又脆又甜的味道,让我难以忘记。来到日本有十几年了,也没看到过这种桃子。好想回去大吃一顿解解馋。

(松叶)